

# 2026年3月期 決算説明会資料

2026年4月24日



JFE システムズ 株式会社

## 2026年3月期 業績概要

- 重点成長領域である、デジタル製造事業、ERPソリューション事業、ITインフラ・セキュリティ事業に加え、スマートソリューション事業は引き続き堅調に推移。
- 鉄鋼事業の製鉄所システムリフレッシュは成功裏に完遂。これに伴う作業量減少の影響により、全体としては昨年度を下回る業績となった。
- 第2四半期時点の公表値(下方修正値)に対しては、期中での費用見直し・生産性の一層の向上を図ったことにより下方修正前の利益水準まで挽回。

## 2027年3月期 業績見通し

- 重点成長事業を中心とするグループ外顧客向け事業では、増収を見込む。
- 鉄鋼事業は製鉄所システムリフレッシュの完遂により前年度比減収となるが、リソースの再配置と体制の効率化を速やかに進め、全社成長軌道への回帰を図る。
- 売上高は 600億円(前年度比+26億円)、経常利益は68.0億円(前年度比+3.5億円)を見込む。

## 株主還元

- 2026年3月期末配当は、当初計画どおり40円/株(年間68円/株予想)を予定。
- 2026年度については、配当性向の水準を維持しつつ、業績見通しにおける増益を反映し、年間70円/株への増配を予想。

# CONTENTS

- 1. 2026年3月期 業績 .....04
- 2. 財務情報 .....11
- 3. 2027年3月期 業績見通し .....15
- 4. 株主還元 .....21
- 5. 資本コストや株価を意識した経営への対応 .....23
- 6. 中期計画に対する進捗状況 .....25



# 1. 2026年3月期 業績



## 鉄鋼

- JFEスチール、JFEグループ向けシステム開発  
JFEスチールの生産・操業管理システム、および本社・JFEグループ各社 基幹・業務システムの構築・改善・運用・維持管理
- 製鉄所システムリフレッシュ(2026年3月期完了)  
製鉄所操業の豊富なデータ資産活用を可能とする、JFEスチール DX戦略の柱となるシステム構造改革プロジェクト

## デジタル製造

- データドリブン経営支援  
SCMソリューション、産業データ&AIプラットフォーム構築、デジタルワークプレイスの提供

## ERPソリューション

- 基幹システム構築  
ERP(SAP社、Microsoft社)と自社開発のERPテンプレート群提供による基幹システム構築、およびBI/DWH構築

## スマートソリューション

- パッケージシステム提供  
自社開発(電子帳票・食品品質管理・原価管理・調達システムなど)およびアライアンスソリューションを、単独または組み合わせて提供

## 産業ソリューション

- 大規模製造業向け業務システム開発  
製造業の豊富な業務知見に基づき、お客様ニーズに合った業務システムを構築

## 基盤

- ITインフラストラクチャの提供  
クラウドサービス、ネットワーク構築、仮想化技術、情報セキュリティなどITインフラの提供

### ※ 子会社

JFEコムサービス(株) インフラ構築およびJFEグループ向けSI  
IAFコンサルティング(株) 経営指標の可視化(BI)導入コンサル

# 2026年3月期 決算概況(連結:前年度比)

単位:百万円	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減額	増減率
売上高	63,972	57,411	△6,561	△10.3%
売上総利益	15,084	14,424	△660	△4.4%
販売費及び一般管理費	7,495	8,078	+583	+7.8%
営業利益	7,589	6,346	△1,243	△16.4%
経常利益	7,667	6,454	△1,214	△15.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,442	4,266	△1,177	△21.6%
受注高	67,059	54,589	△12,470	△18.6%
受注残高(期末)	25,885	23,064	△ 2,822	△10.9%
ROE(自己資本利益率)	17.5%	12.5%	△ 5.0ポイント	
EPS(一株当たり純利益)*1	173.3円	135.8円	△37.5円	
DPS(一株当たり配当金)*1	61.0円	68.0円	+7.0円	
配当性向	35.2%	50.1%	+14.9ポイント	

## 2026年3月期 概況

### (売上高)

- 鉄鋼事業の減収影響により、前年度比で10.3%の減。

### (販売費及び一般管理費)

- 営業活動強化に伴う販売費の増加および、積極的な人材採用や育成・リスキングなどの推進に伴う費用、業務効率化を目的とした社内システム費用増加等の影響により、前年度比で7.8%増。

### (営業利益)

- 売上の減少に加え、成長基盤強化のために継続的な人材投資を増加させていることから、前年度比で16.4%減。

### (当期純利益)

- 保有投資有価証券の評価損による影響もあり、親会社株主に帰属する当期純利益は前年度比21.6%の減。

# 2026年3月期 事業別売上高(連結:前年度比)

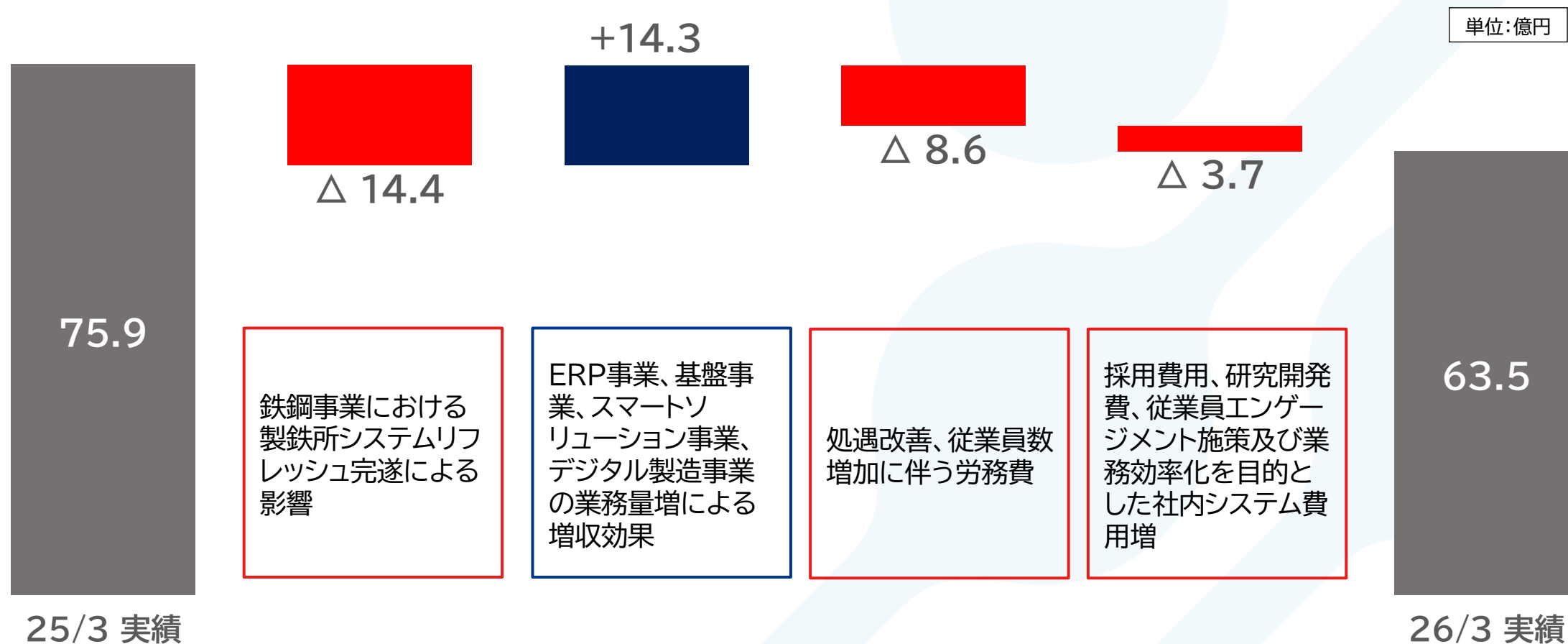
- 鉄鋼事業において、製鉄所システムリフレッシュを計画どおり完遂した。
- 重点成長事業を中心とするグループ外顧客向け事業では、前年度比で順調に増収を達成。

単位:百万円	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減額	増減率	2026年3月期 事業概況
売上高 *1	63,972	57,411	△6,561	△10.3%	
デジタル製造	1,925	2,219	+294	+15.3%	製造業顧客へのサプライチェーンマネジメントソリューション導入案件増加により増収
ERPソリューション	3,139	3,977	+838	+26.7%	製造業顧客向け、ERP導入案件や次世代データ基盤構築案件の拡大により増収
スマートソリューション	5,238	5,907	+669	+12.8%	人事・給与ソリューション更新や原価案件の増加により増収
産業ソリューション	7,746	7,895	+148	+1.9%	高い水準の業務量を維持し、堅調に推移
鉄鋼	30,328	21,993	△8,335	△27.5%	製鉄所システムリフレッシュの完遂
基盤	9,444	9,904	+461	+4.9%	ITインフラ・セキュリティ案件増による増収
子会社、他	6,152	5,515	△636	△10.3%	見込案件期ズレ影響もあり、減収

連結売上高(\*1)と各事業の売上高合計値の差の主要因は、会計処理による調整差額によるもの。

# 2026年3月期 営業利益増減の要因(連結)

- 製鉄所システムリフレッシュ完遂に伴う影響に加え、処遇改善および従業員数増加に伴う労務費の増加等により減益。



# 2026年3月期 事業別受注高および受注残高の状況(連結)

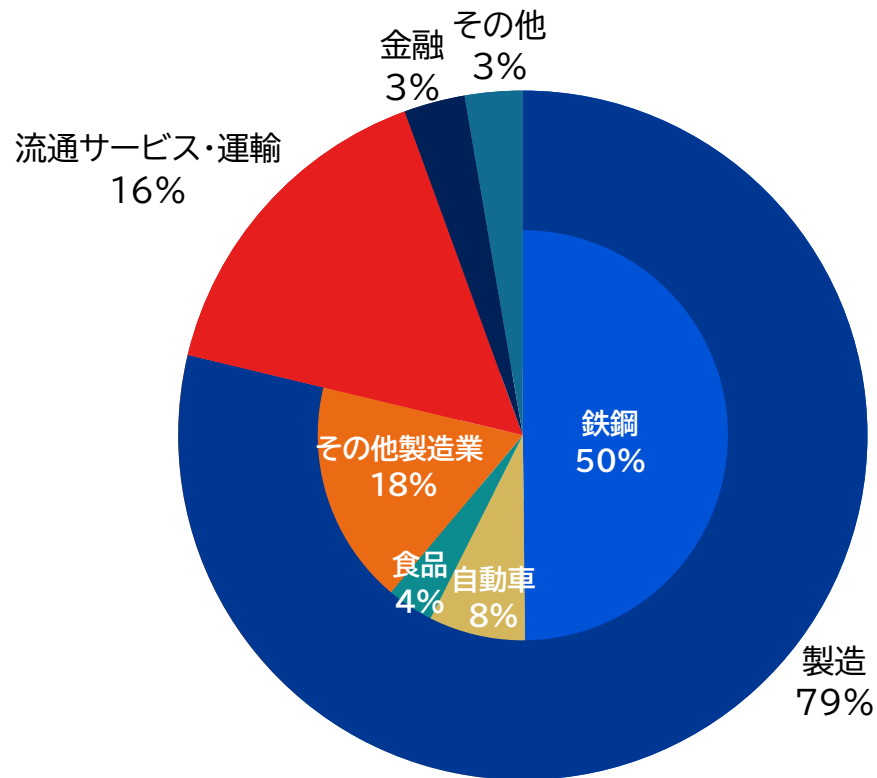
単位:百万円	受注高			受注残高		
	2025年3月期 通期	2026年3月期 通期	増減比率	2025年3月期 期末	2026年3月期 期末	増減比率
合計	67,059	54,589	△18.6%	25,885	23,064	△10.9%
デジタル製造	2,416	1,466	△39.3%	2,650	1,890	△28.7%
ERPソリューション	3,673	3,728	+1.5%	1,830	1,597	△12.7%
スマートソリューション	5,535	6,188	+11.8%	2,434	2,649	+8.8%
産業ソリューション	7,332	8,265	+12.7%	2,498	2,869	+14.9%
鉄鋼	29,313	19,362	△33.9%	6,591	4,444	△32.6%
基盤	12,669	9,766	△22.9%	7,790	7,631	△2.0%
子会社、他	6,121	5,813	△5.0%	2,093	1,983	△5.2%

# 参考:2026年3月期 顧客業種別売上高割合(単体)

- 売上高の約8割が鉄鋼、自動車、食品を始めとする「製造業」に属するお客様向けを占める。

## 2026年3月期 顧客業種別売上高割合

単位:百万円



業種	2025年 3月期	2026年 3月期	増減比率
合計	58,235	51,457	△11.6%
製造	47,606	40,521	△14.9%
鉄鋼	34,208	25,641	△25.0%
自動車	3,513	3,914	+11.4%
食品	1,679	1,893	+12.7%
その他製造業	8,206	9,073	+10.6%
流通サービス・運輸	7,888	8,070	+2.3%
金融	1,460	1,472	+0.8%
その他	1,280	1,394	+8.9%



## 2. 財務情報



# 2026年3月末 連結貸借対照表(連結)

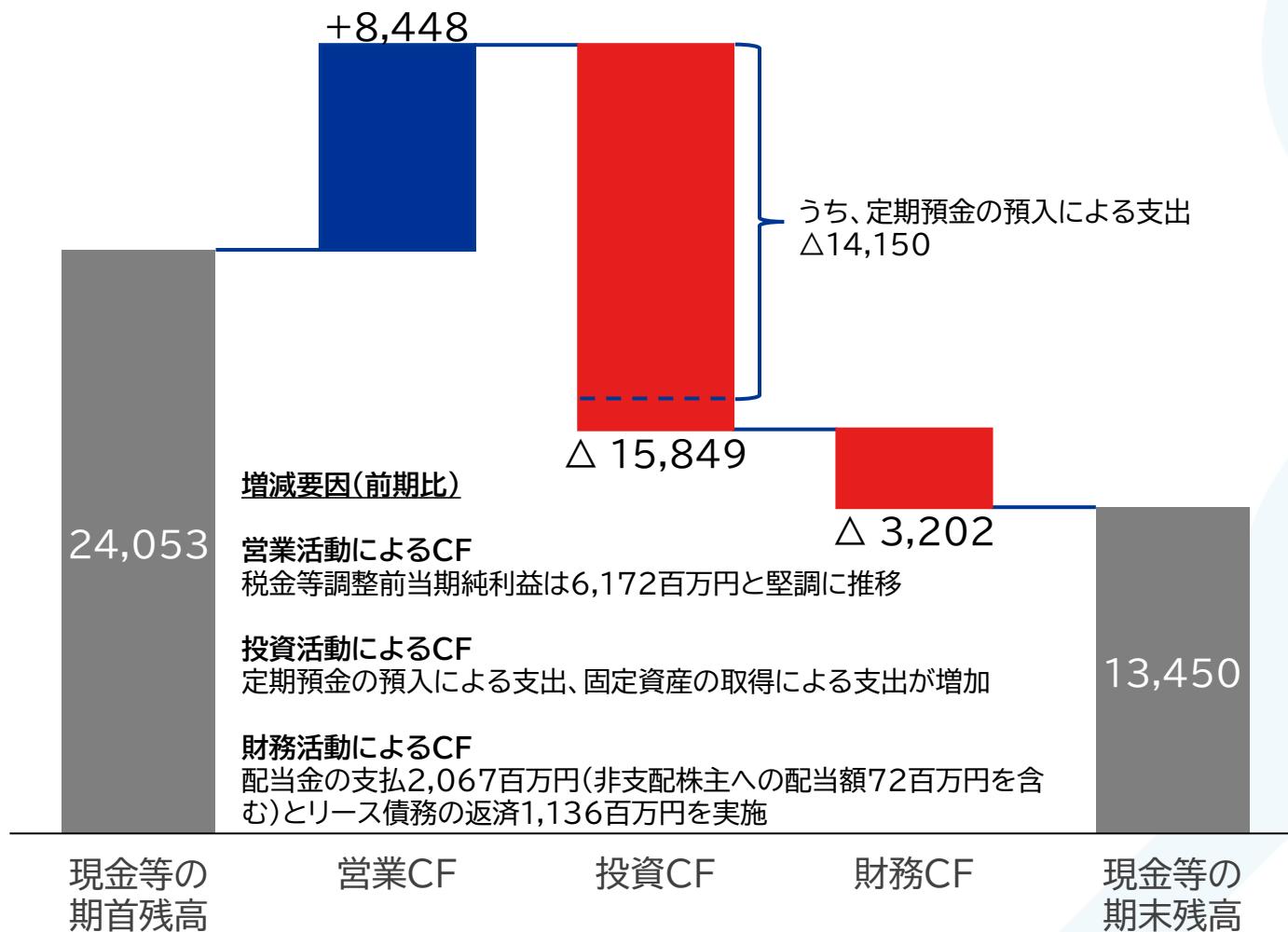
- 総資産は、製鉄所システムリフレッシュ完遂に伴う売掛金の回収進展、有形固定資産の償却、投資その他における長期前払い費用の償却及び保有有価証券の評価減などにより、2025年3月末比 △ 341百万円の52,725百万円。

単位:百万円

区分	2025年 3月末	2026年 3月末	増減	区分	2025年 3月末	2026年 3月末	増減
現預金	24,053	27,600	+3,547	流動負債	12,522	10,520	△2,002
その他流動資産	16,218	13,387	△2,831	固定負債	6,399	5,507	△892
流動資産合計	40,271	40,987	+716	負債合計	18,921	16,027	△2,894
有形固定資産	4,079	3,419	△659	株主資本	31,851	34,122	+2,271
無形固定資産	2,741	2,806	+64	その他の包括利益累計額	1,155	1,346	+190
投資その他	5,974	5,512	△462	非支配株主持分	1,139	1,231	+91
固定資産合計	12,795	11,738	△ 1,057	純資産合計	34,145	36,698	+2,553
資産合計	53,066	52,725	△ 341	負債・純資産合計	53,066	52,725	△341

# 2026年3月期 キャッシュフロー計算書(連結)

- キャッシュフローは、期首残高24,053百万円から期末残高13,450百万円へと10,603百万円の減少。



単位:百万円

区分	2025年 3月末	2026年 3月末	増減
現金等の期首残高	21,285	24,053	+2,769
営業活動による キャッシュフロー	8,741	8,448	△293
投資活動による キャッシュフロー	△3,180	△15,849	△12,669
財務活動による キャッシュフロー	△2,792	△3,202	△410
現金等の期末残高	24,053	13,450	△10,603

## 非財務情報(人材)

	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期
<b>人材</b>			
新卒採用(名)	63	56	81
キャリア採用(名)	24	30	25
離職者数(名) *	37	45	38
<b>女性活躍推進</b>			
女性管理職(部長・課長級)比率(%)	8.0	9.1	9.8
<b>ワークライフバランス</b>			
平均年間給与(円)	7,770,917	8,380,382	8,610,129
有給取得日数(日)	16.4	14.9	14.8
従業員1人当たり月平均残業時間(時間/人)	21.9	21.1	23.5

(\* )離職者数は、定年退職・役員昇格を除く

## 取得認証



「プラチナくるみん」認定



健康経営優良法人2026



女性活躍推進法に基づく認定マーク  
「えるぼし(2段階目)」



# 3. 2027年3月期 業績見通し



# 2027年3月期 業績見通し(連結:前年度比)

単位:百万円	2026年3月期 実績	2027年3月期 見通し	増減額	増減率
売上高	57,411	60,000	+2,589	+4.5%
売上総利益	14,424	15,560	+1,136	+7.9%
販売費及び一般管理費	8,078	8,960	+882	+10.9%
営業利益	6,346	6,600	+254	+4.0%
経常利益	6,454	6,800	+346	+5.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,266	4,380	+114	+2.7%
ROE(自己資本利益率)	12.5%	11.9%	△0.6ポイント	
EPS(一株当たり純利益)*1	135.8円	139.5円	+3.6円	
DPS(一株当たり配当金)*1	68.0円	70.0円	+2.0円	
配当性向	50.1%	50.2%	+0.1ポイント	

## 2027年3月期 概況

### (売上高)

- 重点成長事業を中心とするグループ外顧客向け事業は堅調に推移し、鉄鋼事業の減収影響はあるものの、前年度比で4.5%の増収となる見込み。

### (販売費及び一般管理費)

- 営業活動強化に伴う販売費の増加および、採用・育成費用、業務効率化を目的とした社内システム費用等を織り込み、前年度比で10.9%増となる見込み。

### (営業利益)

- 増収により、前年度比で4.0%の増益となる見込み。

(\*1) 1株当たり指標は、分割後の株数に換算(2025/4/1に1:2分割を実施)

# 2027年3月期 事業別売上高見通し(連結:前年度比)

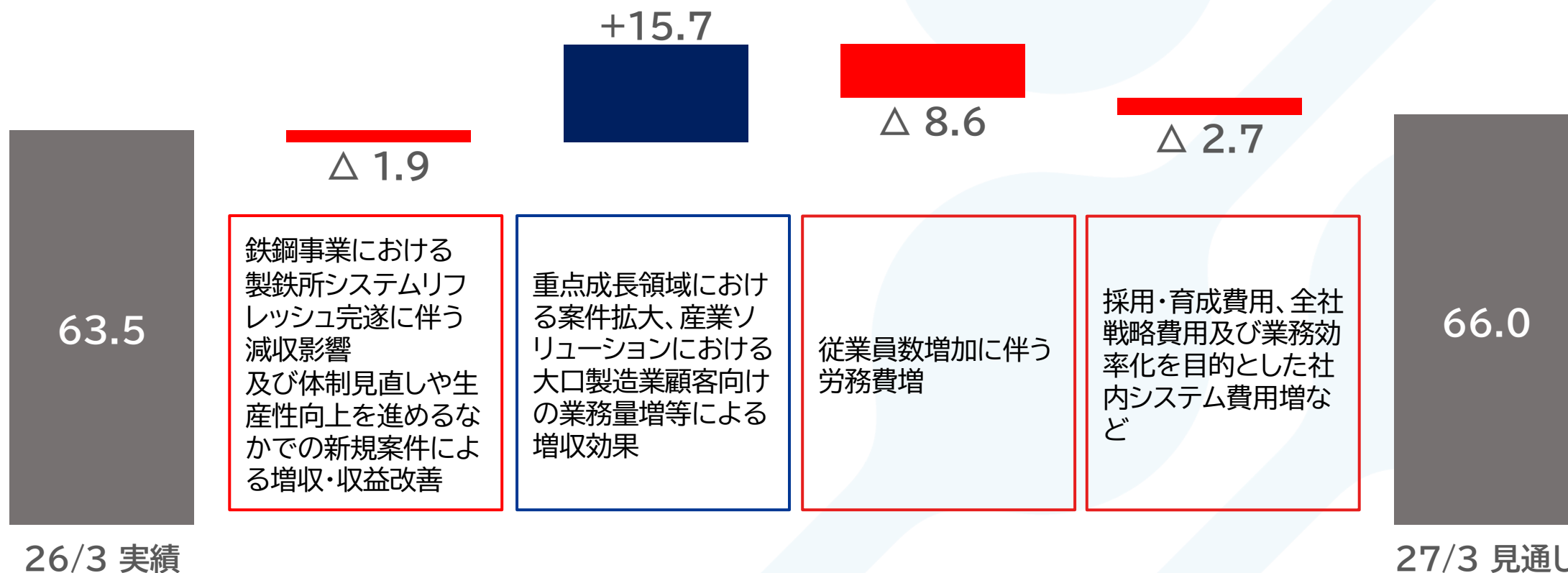
- 製鉄所システムリフレッシュの完遂に伴う影響はあるものの、重点成長事業を中心とするグループ外顧客向け事業の拡大により、2026年度は前年度比で約26億円の増収を見込む。

単位:百万円	2026年3月期 実績	2027年3月期 見通し	増減額	増減率	2027年3月期 事業概況(見通し)
売上高	57,411	60,000	+2,589	+4.5%	
デジタル製造	2,219	2,496	+277	+12.5%	サプライチェーンマネジメントソリューション導入案件とIT/OT統合データ活用案件の獲得により事業規模を拡大する
ERPソリューション	3,977	4,818	+841	+21.1%	新規顧客向けERP導入案件の拡大や、次世代データ基盤構築案件にて増収を見込む
スマートソリューション	5,907	6,095	+188	+3.2%	クラウドビジネスへの移行を通じ、持続的な収益性向上と効率化を進める
産業ソリューション	7,895	9,284	+1,389	+17.6%	自動車業界をはじめとする製造業既存顧客向け業務システム開発の受注拡大により、増収を見込む
鉄鋼	21,993	18,110	△3,883	△17.7%	製鉄所システムリフレッシュの完遂を受け、今後の大型案件受注に向けた取り組みを本格化
基盤	9,904	10,632	+727	+7.3%	事業規模拡大に向け、新規事業開拓、JFEグループ外とのビジネス拡大、社外との協業を積極的に推進
子会社、他	5,515	8,565	+3,050	+55.3%	コムサービス社の売上高拡大等による増収を見込む

# 2027年3月期 業績見通し 営業利益増減の要因(連結)

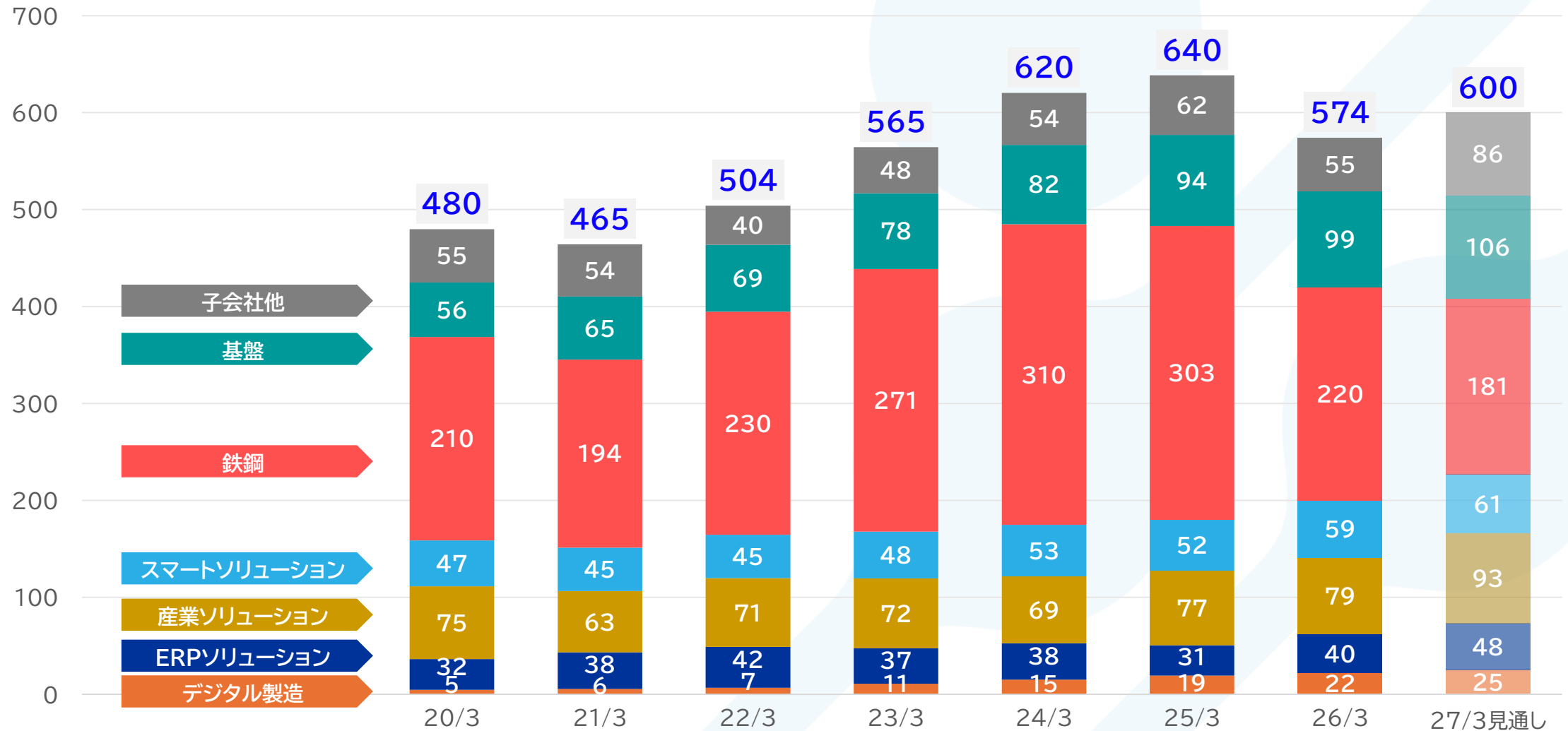
- 製鉄所システムリフレッシュ完遂に伴う影響はあるものの、重点成長事業を中心とするグループ外顧客向け事業の拡大が寄与。成長事業への先行的な要員増強や採用・育成費用、社内システム費用等を織り込み、前年度比2.5億の増益を見込む。

単位:億円



# 参考: 報告単位別売上高推移(連結)

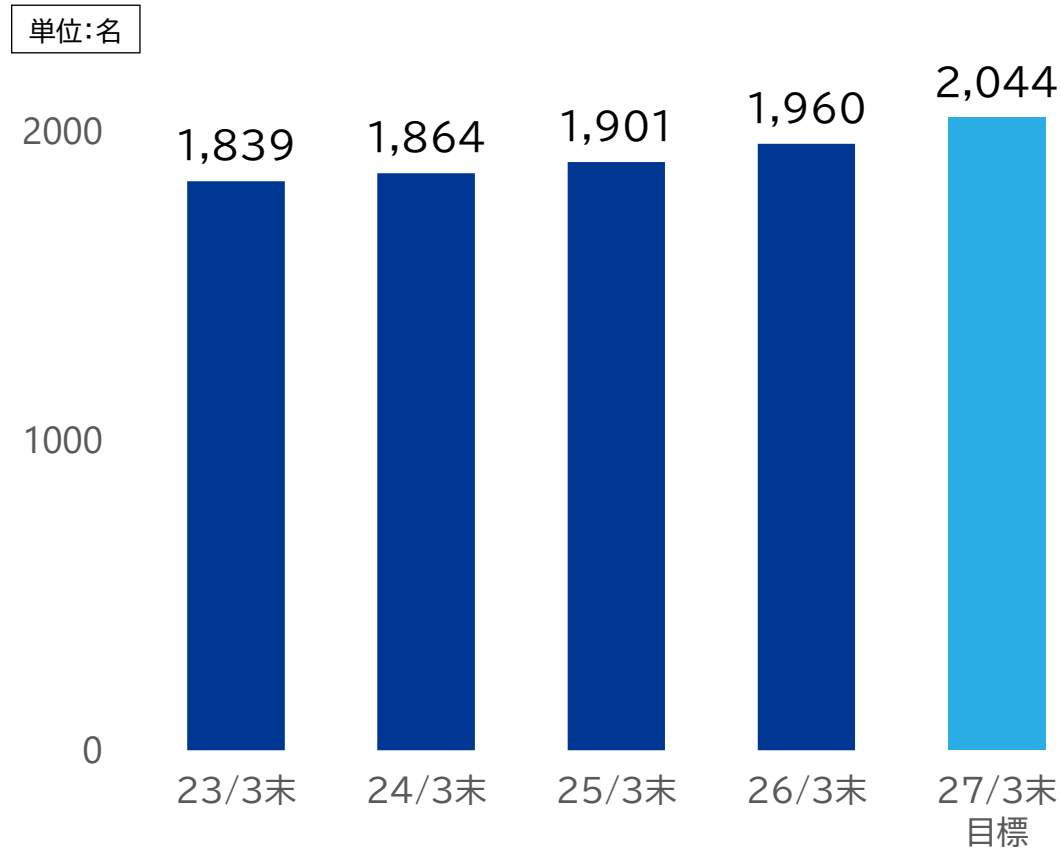
売上高(億円)



# 従業員数推移／セグメント毎従業員数(連結)

- 2026年3月末グループ従業員数1,960名。2027年3月末従業員数2,044名を目指す。

従業員数(連結)推移



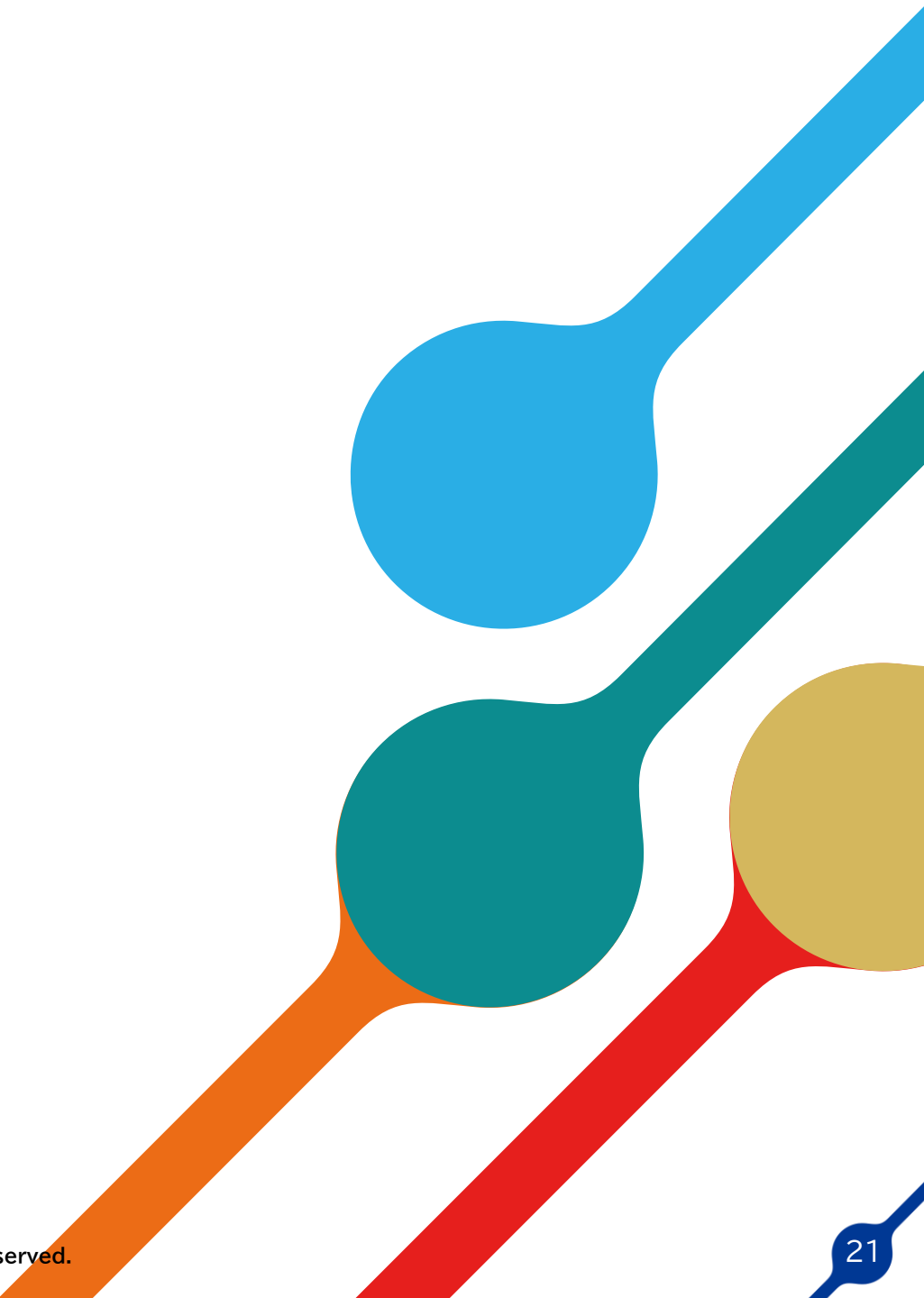
セグメント毎従業員数(連結)

単位:名

	2025年3月末	2026年3月末	増減率
従業員数	1,901	1,960	+3.1%
デジタル製造	56	69	+23.2%
ERPソリューション	129	140	+8.5%
スマートソリューション	233	241	+3.4%
産業ソリューション	320	328	+2.5%
鉄鋼	538	506	△5.9%
基盤	133	151	+13.5%
管理・共通部門 他	145	165	+13.8%
子会社	347	360	+3.7%

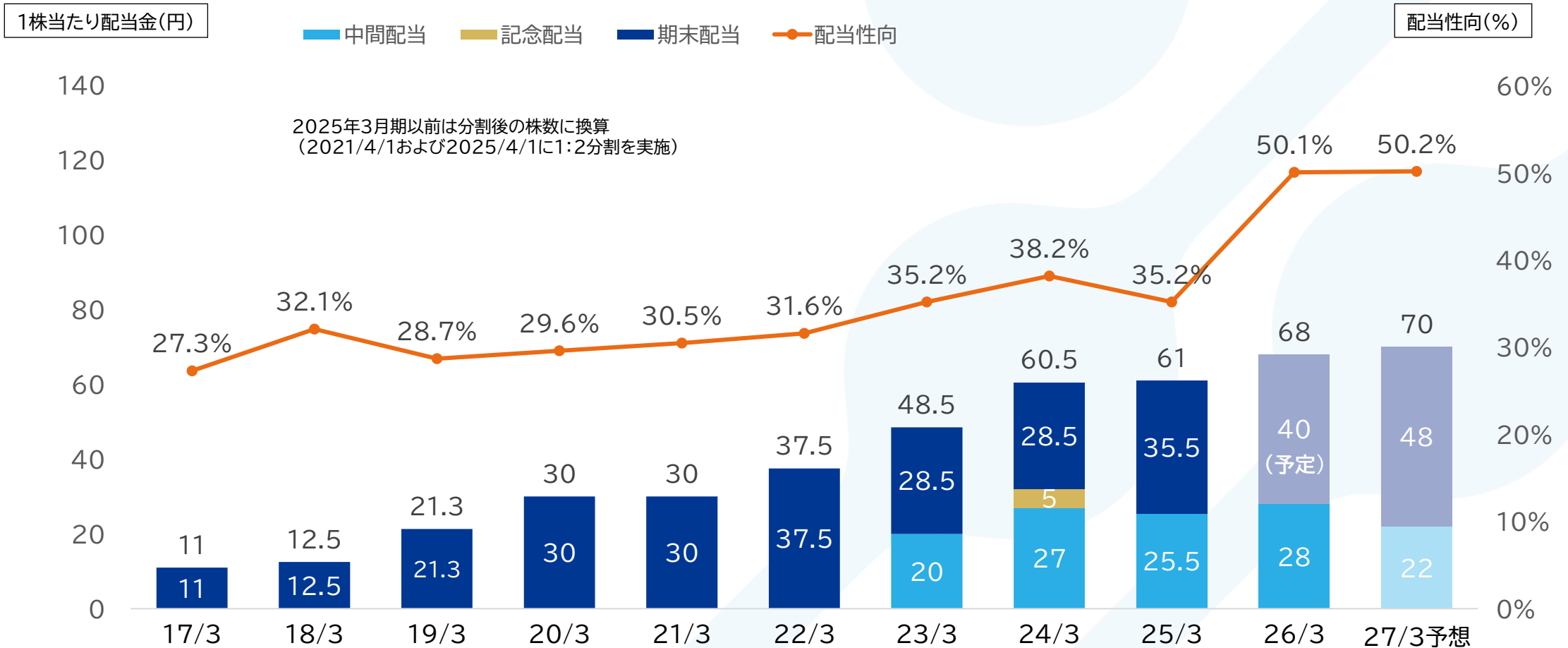


# 4. 株主還元



# 株主還元

- 現中期経営計画では「配当性向50%目途」とし、利益水準、再投資計画、財務状態等を総合的に勘案した利益配分を行う方針。
- 2026年3月期末配当は、前回公表どおり、40.0円／株のまま据え置き、年間68円／株の配当を予定。
- 2026年度も引き続き株主還元を重視した安定配当を実現すべく、年間70円／株を予想。





# 5. 資本コストや株価を意識した 経営への対応

# 資本コストや株価を意識した経営への対応

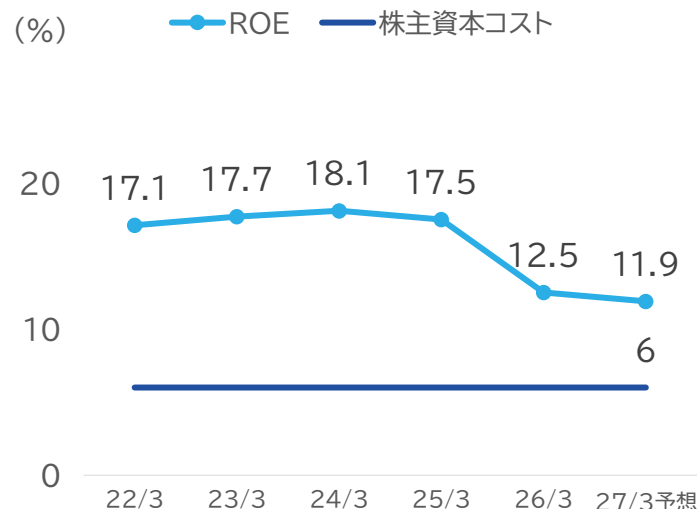
- 当社は、資本コストや株価を意識した経営の重要性を踏まえ、株主資本に対する収益性指標ROEを重視しております。

## (現状認識)

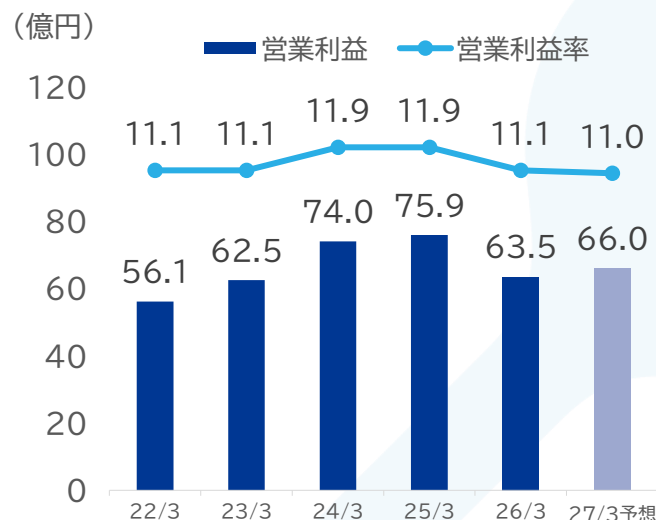
数年にわたる巨大プロジェクトであった製鉄所システムリフレッシュの完遂もあり、ROEは一時的に踊り場となる見込み。足元のROEは、当社が認識する株主資本コスト(6%)を上回る水準で推移しておりエクイティスプレッドは最低限の水準を確保しているものの、さらなる向上に向けて引き続き改善に取り組んでまいります。

また、適正な市場評価を得るべく、PBRに加えPER・EPSなどの株価関連指標の推移を注視し、当社理解の促進に繋がる情報開示及び取締役会への定期的なフィードバックなどの改善策を講じてまいります。

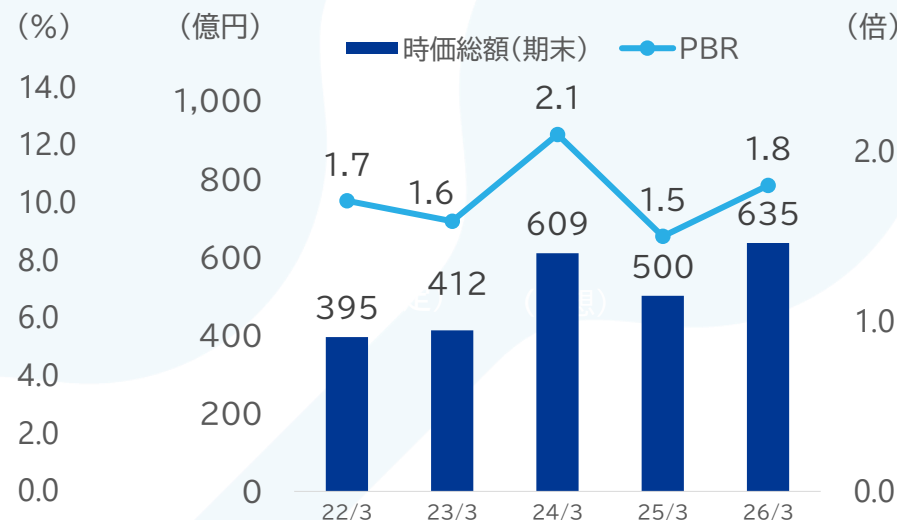
## 資本効率性



## 収益率の向上



## 市場からの評価





## 6. 中期計画に対する進捗状況

# 中期経営計画概要（2025-2027）

2030年に目指す姿

## スマートフルITの実現

- ITの力を通じてお客様へ貢献し、世の中をスマートにすることで社会へ貢献し続ける-

社会的価値の提供

企業価値の向上

事業規模の拡大

価値創造プロセス

STEP

① 2022-2024

STEP

② 2025-2027

STEP

③ 2028-2030

事業成長

DX・基盤事業強化

事業ポートフォリオ再構築

コンサル型企業への進化

収益性・財務強化

収益力向上 還元政策強化

規模と収益 双方の追求  
株主還元の継続強化

連結売上高 850億円超  
連結営業利益 120億円超

# 中期経営計画概要 (2025-2027)

中期テーマ

成長・協力・共創

鉄鋼で培った強みで社会に貢献、持続的に成長する企業へ

企業としての

成長

	2024	2025	2027	2030
売上高	640 億円	586 億円 実績 574 億円	674 億円	850 億円超
経常利益	77 億円	64 億円 実績 64.5 億円	80 億円	120 億円超

事業間の

協力  
連携

戦略の要諦	事業シフト	将来に亘る継続的な成長に向け、 <b>事業ポートフォリオの抜本的変革</b> 重点成長事業分野の特定とリソースシフトを実行 ➡JFEスチール製鉄所システムリフレッシュ完了に伴う <b>鉄鋼事業の減収を</b> <b>成長事業の増収でリカバー</b>
	企業文化の変革	事業シフトに伴い全社でシナジーを創造する組織体制へ <b>持続的な成長と発展を目指す企業文化を醸成する</b>
	投資・財務戦略の強化	成長に向けた戦略的な投資とM&Aを推進 株主還元も従来以上に進め、 <b>企業価値・資本効率の更なる向上を図る</b>

経営基盤強化

お客様との

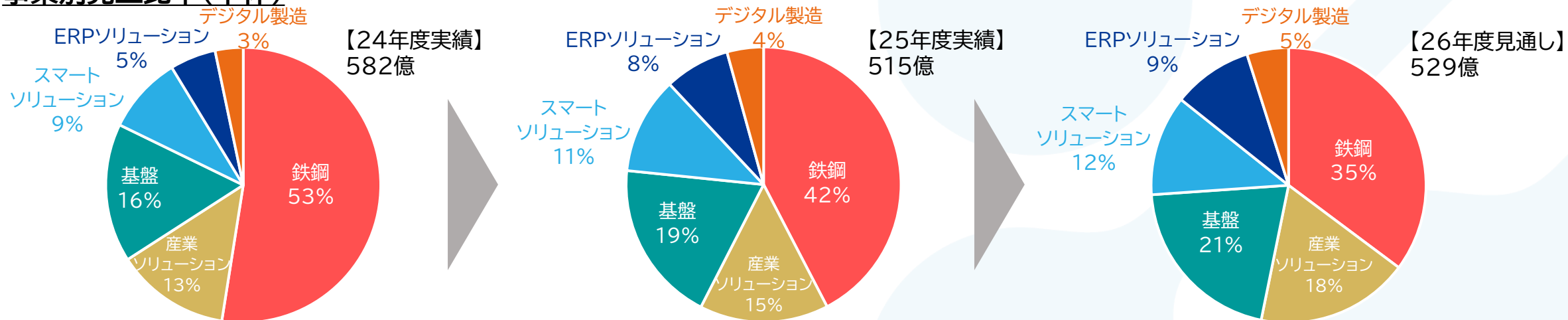
共創

# 中期計画に対する進捗状況

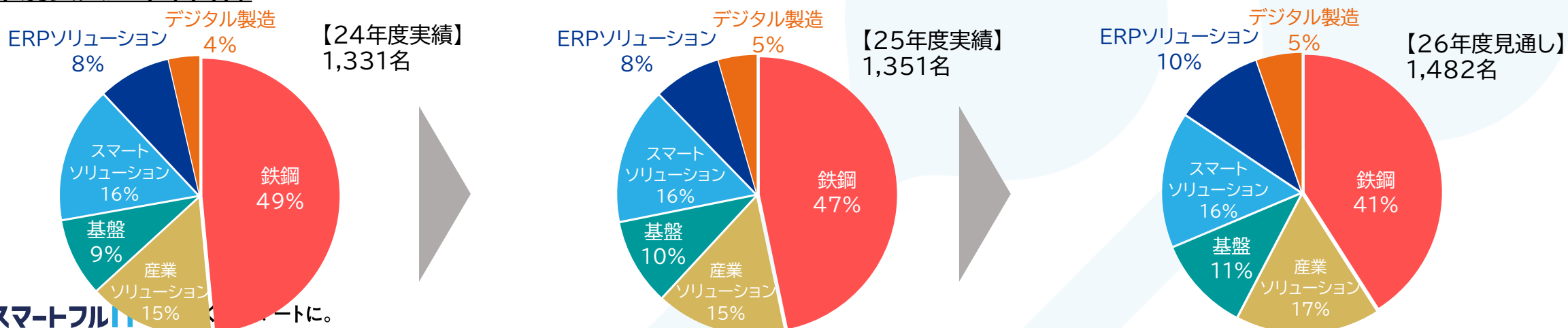
## 事業ポートフォリオの転換

- ▶ 重点成長事業(DX、ERP、基盤)を中心とした事業ポートフォリオの転換を推進。
- ▶ 中期計画達成に向けて、成長領域への人材シフトにより体制を強化。

### 事業別売上比率(単体)

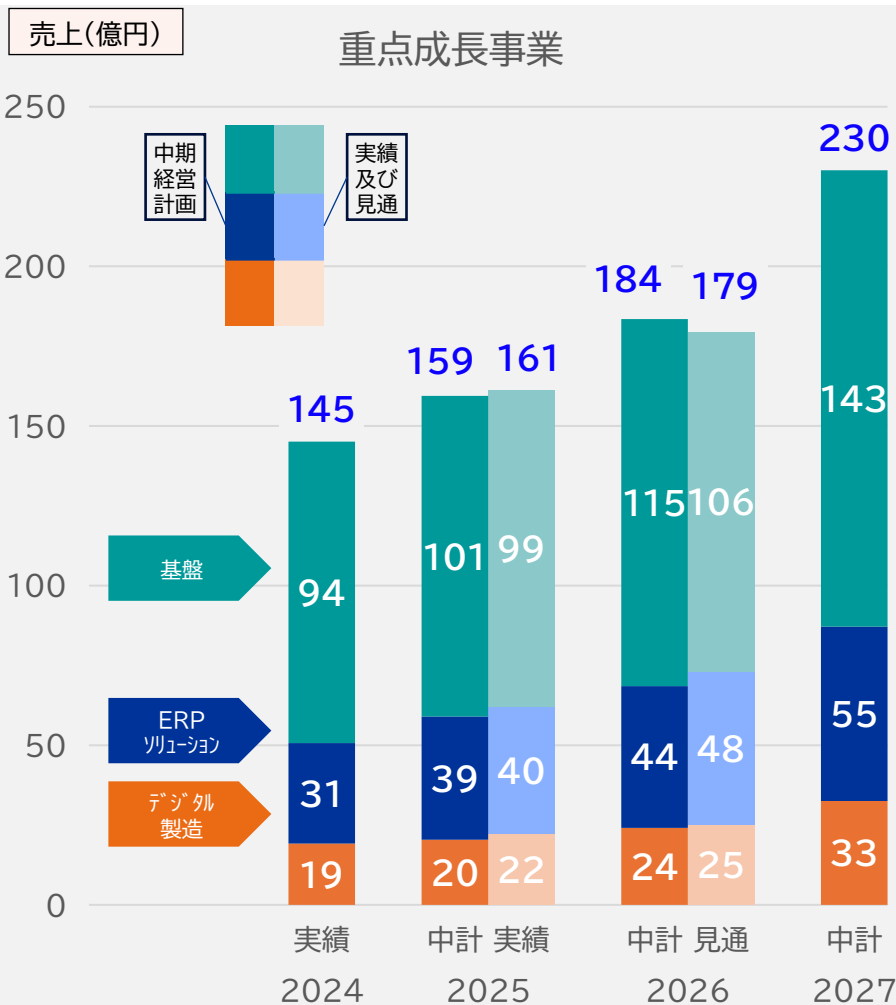


### 事業別要員比率(単体)



## 重点成長事業

- ▶ 全社の成長を牽引し、市場プレゼンスと収益の両面で将来の柱とする事業群。
- ▶ 中期計画達成に向けて3事業共順調に進捗。



### 基盤事業

- 市場における需要拡大を背景に、クラウド・セキュリティ関連需要は堅調に推移
- グループで培った技術・運用ノウハウを起点に、グループ外顧客への展開を拡大
- 他社協業も活用しながら新たなソリューション創出を進め、中長期的な成長ドライバーの確立を目指す

### ERPソリューション事業

- SAP社およびMicrosoft社の基幹システムを成長ドライバーと位置付け、製造業顧客を中心とした受注・案件形成を計画通り進捗
- 原価・購買・BIなどの自社開発周辺ソリューションとのクロスセルにより、付加価値拡大と収益基盤の強化を推進
- 次世代データ基盤構築案件も計画通りに推進中

### デジタル製造事業

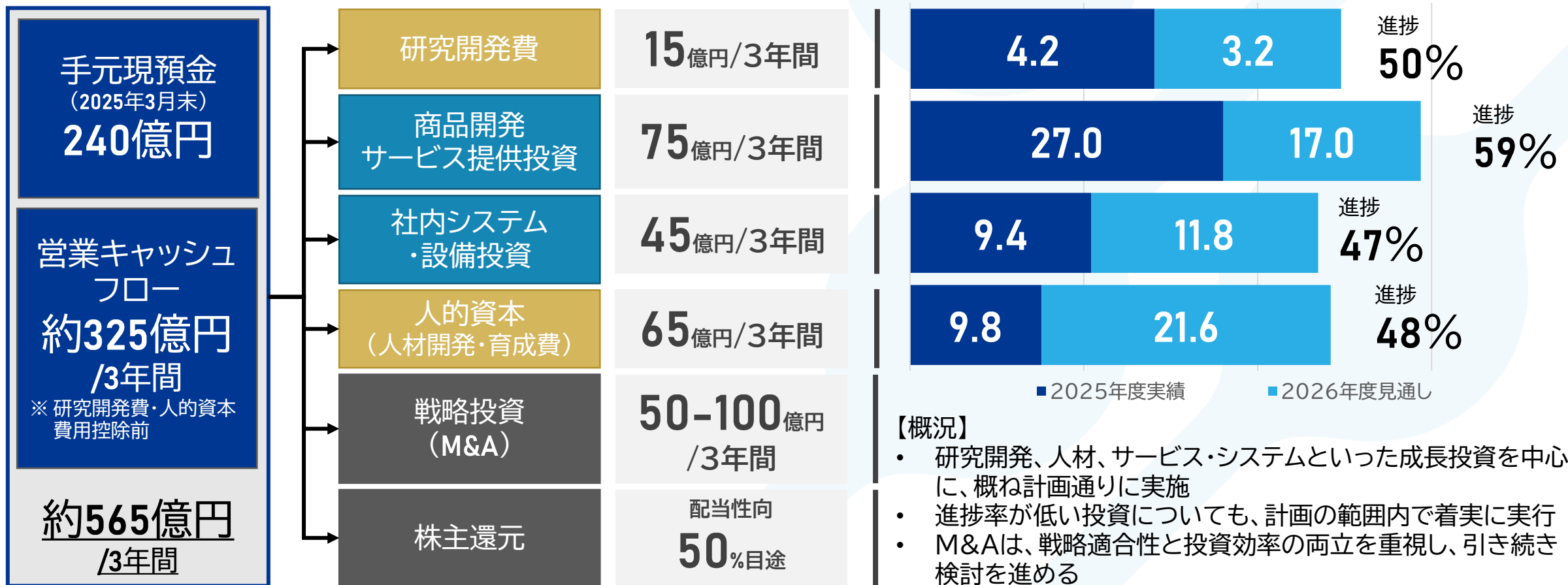
- 製造業向けサプライチェーンマネジメント(SCM)ソリューション導入案件は引き続き堅調に推移し、中期計画通りの進捗
- 製造業を中心にDX需要は底堅く推移しており、IT/OT連携を起点とした現場データ活用を軸に、新規事業の成長に向けた案件創出を推進中

# 中期計画に対する進捗状況

## 基本戦略3

### 投資・財務戦略の強化(キャッシュアロケーション)

これまでの事業成果による手元資金と本中期3カ年の事業活動により創出されるキャッシュは、将来の成長に資する活動への積極投資と従来以上の株主還元を進める原資とし、成長戦略の実践と資本効率の改善を進め、更なる企業価値の向上を図る



# 製鉄所システムリフレッシュの完遂(プレスリリース抜粋)

## JFEスチール 全製鉄所・製造所の基幹システムがオープン環境へ完全移行

- 5年2カ月の短工期で基幹システム約2億STEPを刷新 -

- 当社は、本プロジェクトをJFEスチールより受注し、各製鉄所・製造所の基幹システム刷新を並行して推進してまいりました。
- 2022年10月に基幹システムをオープン環境へ移行した仙台製造所を皮切りに、順次各製鉄所・製造所におけるプロジェクトを推進し、2025年12月に西日本製鉄所(福山地区)および東日本製鉄所(千葉地区)の移行が完了したことで、全地区の基幹システム約2億STEPの刷新を完遂しました。
- 当社は、このたびの大規模基幹システム刷新プロジェクトで得られたノウハウを活用し、今後もJFEスチールおよび製造業のお客様へ向けた大規模開発やデータ活用支援に努めてまいります

JFEスチール株式会社 圧延工程



### 【製鉄所システムリフレッシュ概要(全地区)】

着工:2020年10月

完工:2025年12月

従来システム:富士通ホスト(倉敷・千葉)、

IBMホスト(仙台・京浜・福山)

新システム:クラウドサーバー環境



# Appendix

2025年  
4月2日

## 「健康経営優良法人2025」に認定

「健康経営優良法人認定制度」において「健康経営優良法人2025(大規模法人部門)」に認定

2025年  
4月8日

## 原価管理システム「J-CCOREs<sup>®</sup>」の新バージョン「J-CCOREs<sup>®</sup> Basic」をリリース

短い期間での導入・低いランニングコストでの運用を可能とする「J-CCOREs<sup>®</sup> Basic」の提供を開始

2025年  
4月22日

## データ連携ツール「ASTERIA Warp」の開発者・運用者向けフレームワークを自社開発・販売開始

アステリア株式会社製データ連携ツール「ASTERIA Warp」の開発者・運用者向けの自社開発フレームワーク「EAIフレームワーク for ASTERIA Warp」を販売開始、システム連携基盤の安定性、利便性、メンテナンス性を向上

2025年  
5月14日

## クラウド型Web購買システム「Prociec<sup>®</sup>」の新バージョン(Ver.1.1)をリリース

「アンケート機能」や「チャット機能」などの取引先とのコミュニケーション機能を強化し、受発注業務をさらなる効率化を実現

2025年  
8月15日

## 原価管理システム「J-CCORES®」の新機能「中期計画原価計算モジュール」の提供を開始

中期経営計画の策定期間に合わせた計画原価の算出を可能とするほか、オプション機能と組み合わせて導入することにより、効率的な業務運用や正確な原価情報の提供を実現

2025年  
8月25日

## 食品業界向け「MerQurius Net® 包材規格書サービス」を提供開始

従来サービスのノウハウを活かし、食品メーカーと包材メーカー間の包材規格書授受を支援するクラウドサービスの提供を開始

2025年  
8月26日

## 電子帳票パッケージ FiBridge®シリーズで18年連続シェアNo.1を獲得

株式会社富士キメラ総研が実施した「ソフトウェアビジネス新市場 2025年版」の調査において、自社開発の電子帳票パッケージ「FiBridge®シリーズ」で、18年連続で国内製品におけるシェアNo.1を獲得

2025年  
11月13日

## JFEスチール 東日本製鉄所(京浜地区)大規模一貫製鉄所基幹システム オープン環境へ完全移行

2025年  
11月14日

## JFEシステムズ、「AWSセレクトティアサービスパートナー」認定を取得

AWSパートナーネットワークにおいて、2025年10月14日に「AWSセレクトティアサービスパートナー」の認定を取得

2025年  
11月18日

## JFEシステムズ、「名古屋事業所」開設のお知らせ

豊田事業所の事業拡大に伴い、東海地方における営業体制の強化および顧客対応力のさらなる向上を目的とした拠点整備を実施

2026年  
2月26日

## JFEスチール 全製鉄所・製造所の基幹システムがオープン環境へ完全移行

5年2カ月の短工期で基幹システム約2億STEPを刷新

2026年  
3月11日

## 食品業界向け「MerQurius Net® 購買受発注サービス」を提供開始

自社開発の「MerQurius Net®」の新サービスとして「MerQurius Net® 購買受発注サービス」を提供開始

2026年  
3月18日

## 「健康経営優良法人2026」に認定

「健康経営優良法人認定制度」において「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に認定

2026年  
3月30日

## 世界を「夢中」で染めてゆく。

## JFEシステムズ、ハラルボニーと描く新しい採用ブランドを立ち上げ

採用強化を目的に採用サイトを刷新し、株式会社ハラルボニーとのコラボレーションによる新しい採用ブランドを立ち上げ



**スマートフルIT**  
SMART+HEARTFUL

はたらくをスマートに。  
はたらく人にスマイルを。

#### ご注意

本資料の将来の業績等に関する見通しは、リスクや不確定な要因を含んでおります。  
実際の業績は、さまざまな要因により、見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき願います。



**JFE システムズ 株式会社**